

令和6年度第2回高砂市総合教育会議 会議録

令和6年8月22日（木）高砂市役所本庁舎405会議室において開会

出席委員

市長	都倉	達殊
教育長	玉野	有彦
委員	吉田	美香
委員	山名	克典
委員	神尾	信作
委員	吉屋	章

出席事務局職員

総務部長	荻野	章広
総務部総務室長	吉金	仙人
総務部総務室総務課長	十倉	正佳

教育部長	木田	匠
教育部教育推進室長	福本	典子
教育部学校教育室長	平山	健二
教育部学校教育室参事	矢野	仁之
教育部教育推進室教育総務課長	石原	里美
教育部学校教育室学校教育課長	福永	慎也
教育部学校教育室学校教育課青少年センター所長	長谷川	竜平
教育部教育推進室教育総務課係長	長谷川	宏輔

傍聴者

5名

本日の議事

- (1) 高砂市教育大綱について
- (2) 高砂市教育振興基本計画について
- (3) その他

○事務局

それでは、定刻になりましたので、これより令和6年度第2回高砂市総合教育会議を開会いたします。

まず初めに、市長から御挨拶をお願いいたします。

○都倉達殊市長

皆さん、こんにちは。ただいまより令和6年度第2回目の高砂市総合教育会議の開催に当たり、委員の皆様には御多忙の折、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

改めて委員の皆様方には、平素から高砂市の教育行政、あるいは高砂市のこどもたちの健やかな成長に御尽力を賜っておりますことに、お礼と感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

本年度第1回総合教育会議でも申し上げましたが、私は、次期高砂市教育振興基本計画策定に並行いたしまして、市長として教育大綱を考えると申し上げてまいりました。

今回、高砂市教育大綱の素案をお示ししておりますので、教育委員の皆様方には御意見を賜りたいと考えております。

さて、本日の議題といたしましては、2点上げてございます。1点目は先ほども申し上げましたが高砂市教育大綱について、2点目には教育部において、現在、策定作業中の第4期の高砂市教育振興基本計画についてを御議論いただきたいと考えております。地方教育行政の組織及び運営に関する法律において、地方公共団体の長は、教育基本法第17条第1項に規定する基本的な方針である国の教育振興基本計画を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものとする。また、地方公共団体の長は、大綱を定め、又はこれを変更しようとするときは、あらかじめ総合教育会議において協議するものとするとされております。

皆様方にはかつたつな御議論をいただければと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局

ありがとうございました。

本日は全ての構成員の皆様には御出席いただいております。出席者の御紹介並びに事務局の出席者の紹介につきましては、出席者名簿をもって代えさせていただきます。

それでは、これから議事に入らせていただきます。

本日は、「高砂市教育大綱について」、「高砂市教育振興基本計画について」を議題として上げさせていただいております。高砂市総合教育会議運営要領第4条の規定により、市長が議事進行を行うこととなっておりますので、これからの進行は市長をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

○都倉達殊市長

それでは、私から1つ目の議題でございます。高砂市教育大綱についてということで、私から御説明させていただきたいと思います。

まず、事前に見ていただいているとは思いますが、基本理念について御説明させていただきたいと思います。「ともに育み、ともに認め合い、未来へつながる教育のまち高砂」ということで、基本理念を掲げております。これは、学校、家庭、地域が連携してこどもたちの成長を支え、また、大人も一緒に生涯にわたって学ぶ機会を大切にして、学んだことを生かせるような社会をつくっていききたいという考え方でございます。

また、「未来へつながる教育のまち」は、一人一人が主体的に学び、未来を切り開く力を育む教育の推進を行っていくということでございます。社会環境も大きく変化し、将来予測が困難な時代を迎えております。このような時代ですから一人一人が努力をし、知恵を出し合って、支え合い、思いやりを育んでいくことを目指していきたいと考えております。

それから、基本方針についてでございます。まず1つ目が、こどもが主役の学びの中で質の高い教育を行うということでございます。

これは、こどもたちの好奇心やアイデアから問いを立て、他者と協働して課題を解決する探究的な学びを取り入れて、基礎的な知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力を育むとともに、地域の未来を考える力を育みます。

これは、やはり高砂市の自然や文化に親しみ、ふるさとへの誇りを持っていただくという考え方を基に、地域の未来を考える力を育んでいきたいと思っております。

それから2つ目に、教職員一人一人がICTの活用、生活や文化の体験など様々な手法を通じて、こどもの学びの機会を確保し、自主性を尊重した魅力ある質の高い教育を行っていきます。

教職員の方々のスキルアップを、どのように研修を通じて広げていくかということが大変重要だと思っております。それから、就学前教育、小学校、中学校で、こどもの発達段階や特性を踏まえた連続性のある教育を推進していきます。そういったことで、やはり幼、小、中の段階を通じた中で、連続性のある教育を進めていくということでございます。

それから、大きい(2)番で、こどものニーズに合った教育環境を創るということです。これは、こどもたちの個性を認めて互いの多様性を尊重し、こども一人一人が安心して学べる居場所の充実を図ってまいります。やはり安心して学べる環境が大切ということで、その環境、居場所づくりを大切に考えていきたいと思っております。

それから2つ目には、国籍、言語、性別、障がいの有無にかかわらず、全てのこどもたちがともに学び、ともに育つ、共生社会の実現を目指してまいります。これは、やはり昨今いろんな環境の中で、こどもたちがインクルーシブ教育を含めて、みんなが安心してともに学べる環境をつくることが大変重要になってまいります。自分と異なる個性や価値観を受け入れる心も大切なことだと思っております。そういった意味で、自主性を尊重した魅力ある質の高い教育を目指していきたいと考えております。

それから、地域の実情に応じた新しい時代の学びを支え、安全安心で快適に学ぶことができるように、教育施設・学習環境の充実に努めてまいります。安全安心で快適に学べるような環境、また、学習環境の充実が大変重要になってくるということで、そういったことを目指していきたいと思っております。

それから、大きい(3)番で、こどもも大人も生涯にわたって学ぶ機会を創るということで、全市民が学校教育や生涯学習を通じて、主体的に自ら社会に参画をして、多様な価値観がある社会において相互理解と対話に基づいて、社会を担う人材をつくっていききたいと思っております。

そういう意味では、地域・家庭・学校・行政が互いに連携をして協力し、こどもたち、また、大人も含めた体制づくりを目指してまいります。

それから、こども、大人も含めてですけど、スポーツや文化を楽しむ機会の充実を図る体制を整えてまいります。

教育大綱の御説明はそういったところでございますが、教育大綱の位置付けといたしまして、第5次高砂市総合計画が令和12年度まで行うという計画になっておりまして、大綱も合わせて、令和12年度まで教育大綱を進めていくと考えております。

それから、この教育大綱、冒頭にも申し上げましたが、今回、今まで教育振興基本

計画に基づいて、第3期は前市長がこの大綱も振興計画と同じものという位置付けにしておりましたが、今回、このように私の教育大綱という考え方でまとめさせていただいております。

それでは、私の教育大綱の考え方については以上となります。これから各委員の方々に御質問、御意見を賜りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○山名克典教育委員
いいですか。

○都倉達殊市長
はい。

○山名克典教育委員
市長のこの大綱そのものの基本理念と言われる、これは基本方針と読ませていただきまして、ある程度は理解できるんですけども、この基本理念の中で、まず最初に読んだ時に、「ともに育み、ともに認め合い、未来へつながる教育のまち高砂」という、この「未来へつながる」そこまでいいんですけど、「教育のまち高砂」という、そういう言葉を書いていたんですけども、これを実際どんなふうにイメージとして取るかということですけども、教育長との、教育長じゃないわ、市長そのものはこの教育のまち、これが、今、基本方針とかいろんなことがありますけど、これのことはやろうとしていること、いろいろあるんですけども、教育のまち高砂というのはどんなまちなんだろうというイメージが、どんな形で思われてるのかイメージとして伝わってこないんで、そこが言葉としては、教育のまち高砂って言われるけど、いろんな言葉であって、あるんです、何々のまち高砂とか、何々いろいろ言われるけど教育のまち高砂とすごく大上段から言われたことに対して、すごい強い意志を感じるんで、意図を感じるんですけど、実際どんなイメージを持たれているのか、言葉と実際の具体的イメージがなかなか伝わってこないんで、その辺のことをお聞きしたいんですけども。

○都倉達殊市長
先ほど基本方針の中でも少し触れさせていただいておりますけど、やはり家庭、学校、それと地域がまず連携をした中で、こどもたちの成長を支えていくということが大切だと思っております。また、大人、高齢者の方々も含めて一緒になって、生涯にわたって学ぶ機会を大切にしていける地域づくりをつくっていく必要があって、そういったことでいろんな学ぶ場所の環境づくり、それと、やはりこれから早くて、スピードある社会が変化していく、そういった中で地域がともに未来へつながるような教育ができる整備、環境づくりをしていきたいなと思っております。

○山名克典教育委員
ごめんなさい。すみません。だから、そのイメージ的には、そのやられてることは分かるんですけど、言葉だけのあれなんですけど、「教育のまち」と言われたときに、そのどこでも、今言われたことは、各市町村どこの教育とかでも同じようなことをやろうとしてるんですけども、あえて「教育のまち高砂」といった触れ込みをやるに当たって、いわゆる高砂、自治体としての独自性のある教育体制、そういうものを構築していこうと、していこう、あるいは予算の裏付けがある形で、いろんなことに関して積極的にしていこうという姿勢が表れてるんだろうと思うんです。

だから、それを具体的な基本方針の中に伝わってこないから、実際には言葉としてはここで出るけども、行く行く、これから教育振興基本計画から、そういうのでいろんなところでしていくんですけども、その教育のまち高砂の独自性、高砂の教育どんな形、いわゆる他市から見ても教育に本当に重視した形で地域、あるいはそれなりの各家庭と地域も連携して、それなりの環境つくって、教職員も、あるいは行政も一緒になって、それなりの教育に関しては特殊な、特別に入れ込んでる形が何か伝わってくるようなことがあってほしいなという、よくここで言われるあれですけど、感じ、それが言葉の重さというのがあって、「教育のまち高砂」と言って、それだけのこと言ったら、多分将来的にはしていただけることと思って、実際には教育長ともいろいろ話してる時には、そういう形だからいろんなことも、特別支援教育に関してもそうだし、いろんな部活動のことにしたって、あるいはその他生涯教育に関しても、あるいはその学校の中でのいろんなことに関しても、ある程度の予算の裏付けを持ちながら、それで学校の地域の中の教育施設の充実とか、そういうのも当然進んでいってくれる、そういう言葉と取っていいんですよね。

○都倉達殊市長

山名委員おっしゃるとおり、じゃあ、高砂市はどういう特色を持ってやるんだという中において、以前から教育長ともお話してるんですけど、総合学習の時間も、今、高砂市、昔から企業城下町と言われている各いろんな企業がありまして、コロナの間にはなかなか総合学習の中での授業へ参画、なかなかしていただけない時期があったんですけど、やはりそういった大手企業の方々にもサイエンスといいますか、いろんな企業の持っている、研究していること、あんまり大きな内容まではできないかも分かりませんが、体験型のこととか、いろんな、これから未来に向かって企業がいろいろ進められることも、やっぱり学習の中に取り入れていきたいなと考えておりまして、教育長でも高砂商工会議所にも出向いていただいたりして、協力要請もさせていただいております。そういった中で、総合学習の時間の中でも、今までと違った授業がどういった形でできるのかというの、今いろいろ相談させていただいております。

○山名克典教育委員

ごめんなさい。私ばかりしゃべって。いわゆるその教育のまちと言っても、結局、今後のその形づくった形、教育の、高砂独自のそういうものをつくっていくに当たって、今の現状から、さらに発展していくためには、それなりの予算の裏付けから、それなりの新たなプランニング、あるいは、それなりに何かイメージを持ったもので、こういうプログラムをつくっていくないと、教育のまち高砂という形の、僕はそれだけの言った言葉に対しての施策はやはり実行してもらわないと、なかなか、これ掛け声倒れで倒れては、終わっては困るという発想があって、実際にはいろんな個々の、いろんなことをやってるけど、他市の方、ほかから見てもやっぱり高砂の教育、やっぱりすごい、地域的一体として、行政を含めて一体とやってる、そういう形の、見える形のスタイル、見えるような形のものがあってほしいという、すごく要望というか、これからそうしていかなあかんという、市長のこの心意気に関して、基本理念に関して同意することあるんで、やっぱりやっていきたいなということの、あえて市長のそういう言葉を欲しいわけです。積極的な。

○都倉達殊市長

ちょうど昨日も、米田小学校の瀧野校長先生がテレビでちらちらと、私もたまたま見たんですけど、3Dの関係で明石高専に行かれてまして、こどもたち連れて。ああい

う取組はすごい先進的だと思います。3Dの関係で子どもたちにそういう学びを明石高専へ出向いて授業、プログラムを組んでいただいているという、逆に、また向こうから来ていただくとか、いろんな意味で学校の教育だけではなく、いろんな広く視野を持てるような、子どもたちの発想力とか、これから学ぶことが好きになってもらわないとまずいけないと思ってます。そこにはやはり探究心を深めていけるような教育環境をつくっていくのと、そこにどういうアクションを持ってきて学校の教師の方々だけではなく、部外からのそういう指導者なり、教育をしてもらえるようなカリキュラムを少しでも入れたいなと思ってます。

○山名克典教育委員

いいですか。ほんと、あんまりしゃべったらあれなんで。結局、その個々のいろんなことがいいと思われること、いろいろ3Dのこともあって、いろんなことをやっていくんですけど、それを体系付けた形での、いわゆる高砂市の教育の一つの大きな流れとして、一環としての教育体制という形をつくって、その中へ行政がバックアップ、教育委員会もバックアップして、結局、学校の中でやっていくことに関しての組織的、あるいは予算的な、はっきり言って僕はそういう継続した状態でしていく形をつくっていかなくちゃ、単発でそういうそれぞれの企業の方々が善意でやってくれてることもありますけど、それをいかに体系付けた形で、それを恒久的に続けていって、それと結局、それが将来の生涯教育、あるいはそれなりの地域の皆さんの教育に対する意識のレベルアップとか、地域でみんなで助け合うという形の、そういうのを盛り上げていく形の、そういう何か一つの大きな施策というのを、一つ大きな考えをぽんっと出せないのかなという、僕の気持ちのこと伝えてるわけで。そういうことで、あんまりしゃべってたら、ごめんなさい。

○都倉達殊市長

はい、分かりました。後で教育のほうで、今、素案ですけど、教育振興基本計画のまた説明もさせていただきますけど、いわゆる来年度から5年間含めて、この期間の間で高砂市の教育の方向性とか、やはりそういったことを、今日、皆様方にいろいろ御意見いただいた中で進めていきたいと思っておりますので。ほかの方にも御意見。大綱について、今は大綱について。

○吉屋章教育委員

いいですか。私も今の理念の話の続きですけど、この「ともに育み、ともに認め合い、未来へつながる教育のまち高砂」ですけど、この読み方として、「ともに育み、ともに認め合い、未来へつながる」というところが、この基本方針の（１）、（２）、（３）、これのことだと私読み取ってるので、「ともに育み」というのは、ここに主語が来ると、これ地域であったり、先ほど市長言われたように家庭であったりとともに、子どもを育てていく、同じように教える側も大人も子どもから学ぶという形で「ともに育み」ということ。

○都倉達殊市長

そうですね。

○吉屋章教育委員

次の「ともに認め合い」というのは、この（２）番になるのかな、個性を認め、多様性、今言われてる多様性というものを大事にしながら共生社会というものの実現、これ

をともに認め合いといいますね。未来へつながる教育というのは、（１）番の新しい未来を見据えたＩＣＴも含めた教育、これを理念にしていると思うんですけど、ここでもっと切ってしまうでもいいんですか、読み方としては。「ともに育み、ともに未来へつながる教育のまち高砂」って、私は読みたいんですけど。教育をもっと前面に出したい、教育を柱としたまち高砂と市長の思いがあるのかなと、そう読みたいんです。ここに点を打つような。

○都倉達殊市長

なるほど、インパクトね。

○吉屋章教育委員

でいいんですかね。市長の思い、理念。だから、「ともに育み、ともに認め合い、未来へつながる教育のまち高砂」じゃなくて、教育のまちと、教育に特化した、これから大事やから、教育により力を入れていくまち高砂をつくっていくという読み方でいいんです。そのちょっと、はい。

○都倉達殊市長

委員おっしゃるとおりで、この見せ方といいますか、やっぱり思いをどう伝えるかというのは、いろいろ御意見いただいた中で、次回の総合教育会議の中でも、訂正も加えるところは加えてつくっていききたいなと思っておりますので、今日はまず１回目の協議なんで。

○吉屋章教育委員

この理念が変わる場合もあるんですか。

○都倉達殊市長

いやいや、理念自身は変わりません。

○吉屋章教育委員

それはない、そうですか。

○都倉達殊市長

基本方針の中で、それぞれ内容的にまとめさせていただいておりますので、前回の基本理念というのがありましたけど、それとちょっと変化を付けて、今回、このような内容にさせていただいております。やっぱり未来へ伝えていきたいなという思いが強くなりますので、よろしくお願い申し上げます。

○吉屋章教育委員

教育委員会で皆さんと、委員同士で協議しているときも、この理念見て、教育のまち高砂というところ、非常にいいなと僕ら評価して。これを出してくれたらありがたい、私らの立場として。やっぱり教育、何をするにもやっぱりこどもの教育であって、こどもや若い世代がいなくなったら、誰が福祉や、そういった道を造った、建物を造ったとて誰がそれをするのやということで、やっぱり私らも教育というのが、特に今の時代一番大事やと思っているところを、「教育のまち」という形で前面に出してくれた理念ってすごいいいなってお話をしてますので。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。

○吉屋章教育委員

ぜひこれは、ここで切るぐらいの理念にしてほしい読み方としてね。教育のまち高砂。

○都倉達殊市長

やっぱり何て言うんですか、教育は大切だという基本的なところは変わりません。やはりこの高砂で生まれ育ったこどもたちが、このふるさと愛も持って、文化を含めてですけど、ふるさとを大切に思う心と、まず、そこでどういった教育を学んで、羽ばたいていくかというのが大事だし、あまり転出してしまうと人口減少に歯止めがかからなくなるんですけど、でも、やはり高砂で学んだ教育というのが、やはりひいてはそれぞれの個人個人が、自信を持って社会に出ていくための必要なこの時期だと思いますので、そこは大切に教育環境を整備したいなと思っております。

○神尾信作教育委員

今、基本理念の話になってますが、僕はその先の基本方針のところをお願いがあって、私もその教育のまち高砂というのはいいなと感じてはいるんですけど、その教育の中で、今、高砂市が、これから5年、6年先のことを考えながらですけども、現状これから先を考えて何が一番、もうちょっと大事なこといっぱいあるんですが、今現状思うのは、前回の総合教育会議でも同じような話をさせていただいた気がするんですが、家庭教育の大切さ、重要性というのを明記してほしいなと。もちろん家庭教育というのは、予習復習する家庭学習も含みますけれども、それ以外の朝食のことだとか、早寝早起きだとか、そういう読書をするとか、そういうことを含めての家庭教育をしっかりと明文化するというのが、僕は必要だなと思ってます。

ここで出てくるのは、現在の大綱の中では、(3)のこどもも大人も生涯にわたって学ぶ機会を創るというところの②です。ここに先ほど市長さん御説明ありましたように、地域・家庭・学校・行政が互いに連携した言葉で、家庭は出てくるんですけども、そこはあくまでも連携してるということで、もちろんこの4者が連携することは非常に大切なんですけど、それプラス各家庭でどれくらい自分のこどもを育てられるか、支えていけるかというところを明文化してほしいなと思っています。

例えばなんですけど、ネットで文科省のホームページを見てみると、こんな言葉がありました。「子育てや家庭教育を支える地域環境が大きく変化している今、全ての教育の出発点である家庭教育の充実を図ります。子育てや家庭教育を支える地域環境が大きく変化している今、全ての教育の出発点である家庭教育の充実を図ります。」と。こういう文言をたまたま見つけて、これが例えばの例としていいなと思いました。

家庭とか、地域という言葉が出てくるんですが、特に家庭教育がどれくらいできるかというところが大事だなと思ってて、今年です、1月に総合教育会議でいただいた全国学力学習状況調査の集計結果があります。その中に生活質問調査というやつが集計結果が出てくるんですが、それが先ほど申しましたような、朝食を毎日食べているか。あと毎日同じくらいの時刻に寝ているか。あと読書をする機会がどれくらいあるか。この数値が高ければやっぱり学力も生活も安定して、学力も高い傾向にあるということが、この調査結果から出てきています。これは令和5年度に特別出てくる結果じゃなくて、ずっと同じような結果が出てきてるので、その辺から見ても、やっぱり家庭教育を大事にしますということを、しっかりと(3)のどこかぐらいに、家庭教育の充実という文言で入れていただけたらいいのかなと、そのことを感じております。

以上です。

○都倉達殊市長

次、また説明させていただくんですけども、教育振興基本計画の中に、家庭、地域の教育力の向上と活用という内容が触れてます。そこでまた具体的な、もっと具体的に落とし込んだ内容にまとめさせていただこうと思ってますので、大綱の中であんまり細かくなかなか表現できない部分があるんですけど、今の神尾委員からいただいた、地域・家庭・学校・行政が互いに連携するという中の流れの中で、振興基本計画の中にはもう少し詳細にわたって、内容を御説明していこうという考え方です。

○神尾信作教育委員

ありがとうございます。

その気持ちも分かりながら、あえて一つ上のランクに上がらないかなという思いで。

○都倉達殊市長

なるほど。当然、家庭教育の充実と、それとやはり学校だけではできない教育は、やはり家庭が一番基本になるかなと思っています。

○神尾信作教育委員

ありがとうございます。

○吉田美香教育委員

「教育のまち高砂」、ありがたいと思います。理念にばあっと出していただけたというのはすごく心強いですし、ありがたいと思います。

教育という言葉のイメージですけど、多分、今だと学校教育がメインに感じられると思うんです、こどものための教育。だけど、もうぼちぼち変わってきてるといえるのか、こども自身少ないですね。そして、大人がとても多い社会になってきたので、幸福度ということから考えると、高齢者であっても、青年でも、中年でも、熟年でも、高齢者でも、幸福度という意味では、できないことができるようになるとか、知らなかったことを知るといって非常に高い幸福度を得ることが分かってきています。もちろん衣食住が足りてのことなんですけども、まず今の世の中だと衣食住がまず足りているという前提で言うと、何かちょっとでも今日より明日のほうが自分が何か上に、何かを知ってる、何か上に行けるという学びってすごく大切で、その人の幸福度と直結してるということなんですね。ということだと、こどものための教育というのは、非常に今度小さい、割合として小さいものになっていきつつあるのかなと思います。

例えば、基本方針のところの1番、(1)番というのが、多分、学校教育のことをおっしゃってるのかなと思うんです。ですから、ここは質の高い学校教育を行うということじゃないかな。もちろん質の高い学校教育、せめて平均点取れるようには絶対してあげてほしいと思います、こどもの将来のために。平均点取れないというのはかわいそうなので。(2)番から(3)番というのは、こどもというワードはもう要らないのかなと私は思うんです。将来、学校の施設自身もこどものためだけのものじゃなくなると思っていますので。(2)番もこどものニーズに合った教育環境を創るって、こどもをのけてニーズに合った教育環境をつくる市民全体の、というイメージで捉えていった方が、これからの世の中に近いのかなと思うんです。

(3)番も、「こどもも大人」もがなくても、生涯にわたって学ぶ機会を創る。そういうようにこどもに特化していかない方が、何か2年後、3年後になったらすごくイメ

ージも変わってきてると思うので。何でしょう、こどもの頃に、例えば自分たちというのも大人の学びの助けになるということをこどもが感じてくれれば。昨日、私も明石高専行ってたんです。

○都倉達殊市長
そうですか。

○吉田美香教育委員

はい。そしたらすごい技術者の方が、ちゃんと各こどもに付いてくださって、してくださってるんですけど、以外とこどもがCADでつくったものも、えっ、そっちからやるのとかね、大人の方が気が付かないことをこどもがぼんっと当たり前のようにやるということがいっぱいあって。だから、こどもから学べることって、頭が軟らかいのでいっぱいありますし、こどももちろん大人から学ぶことたくさんありますし、そういう経験をこどもの頃に積んで、大人たちも学んでる姿を見ていると、例えば定年退職した後、高砂市に戻れば、まだ自分ができないことを身に付けられるよという思いを持ってきてたらいいなと、あそこ行ったら教育のまちだから、生涯学べるよみたいなイメージを持てるまちになればすてきだなというイメージを、この市長さんが作られた大綱を見て思いました。ですから、そういう発想を入れていただき、多分持っていらっしゃると思うんですけども、前面に出していただけたら、すごくうれしいなと思いました。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。

いわゆるこどもだけじゃないと思ってます。やはり社会全体でいろんな生涯教育含めて、教育に関心を持つことと、やはりこどもたちだけが教育を受けるんじゃないくて、地域全体で助け合いながら学ぶ環境をつくるのと、大人からこどもたちが学ぶ、学校だけじゃなくて地域で教え合うとかです。また、先ほど申し上げましたように、企業のこれだけいろいろ特色を持った企業がありますので、何か総合学習の中で学んだことがきっかけとなって自分の職業の夢とか、そういったものも描けるんじゃないかなと思っています。

そこにはいろんなチャンネルを用意してあげるということが大事かなと考えております。

ほかございましたら。

○山名克典教育委員

いいですか。基本方針のところ入っていただくんですけども、個々のところに入っていきますけども、その（２）番のこどものニーズに合った教育環境を創るということで、いわゆる②のところ、あえて国籍、言語、性別、障がい、文章の関係で数の関係でこうなったのかなとは思いますが、これは何で４つだけにこだわるかなという形になるんです。そうした場合は、これは人権課題として、それなりのいろんなことに関しての人権問題が含んでるという形で書かれたほうがベターかなと思って、いわゆる一つのこの。

○都倉達殊市長
表現の仕方。

○山名克典教育委員

表現の仕方で、スペースの問題もあって、そうかなと思いますけれども、分かりやすいと言えば分かりやすいですけれども、実際の人権の、結局その多様性の問題から考えたとき、ただ多様性という言葉言われてますけど、そうしたときに、この4つには限らない、すごく幅の広いところで捉えていけないとちょっと付いて行きにくいところ、付いて行くというか、文章として範囲が狭いなと思ったんですけど。いろんなパワハラにせよ、いろんなことからある、ほかの本当にセクハラにせよ、性的なもの、性別でもありますけど、そのほかのことに関しても、やはり人権侵害というか、人権のことに関して国籍、それからコロナの時代にあって、ちょっと幅広く使われた方がいいかなという気はしたんですけど。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。

その辺は、表現検討していきます。

○山名克典教育委員

はい。それと実際には文章の問題として、前も教育委員全員で話し合った時も、人生100年時代を見据えるということで、これがどこの文章でも、県でも、国でも書けるから、高砂市も以前から書いてるんですけど、何かこれも人生100年時代、ほかのところはどういう表現してもいいんですけども、他市とか、そういうところは。人生100年、これちょっとね。それに乗らなくてもいいんじゃない。高齢化と書くよりもこれのほうがいいのかと思うけど、本当100年って誰が生きるねんというのがありまして。100年生きた人たちが、それ実際には本当に、その人も人権あって、やはりそれぞれの日本の、今日も言ってましたね、116歳の方が世界中で一番の高齢者になったということもあって、まだしっかりされてるし、確かにそれもあるんやけど、表現の一つの問題として、こういう右に倣えの文章書かなくてもいいのかなという感じでは思いましたけども。

○都倉達殊市長

分かりました。

○山名克典教育委員

それと実際、大綱の中でのこういう理念、あるいは基本方針の状態から書いていったときに、その3番の②のところでも育てる体制をつくる、つくります。3番も図る体制をつくりますという。そういうつくり方、先ほど僕も言ったんですが、それなりの教育をつくるに当たってのシステム、体制つくってもらわなアカンけども、大綱の中にこういう文章の中に整えて書いたら、やはりそれなりの市長としての公約的な形が、やっぱり実施せなアカンことで確実に実施度、いわゆる実現度どのぐらいやと言われて、後々総括があったときに進んでいくんだろうと、進んでいって充実していくんですけど問題あるかなと。先ほどの神尾委員の話でも、やっぱり明文化すると、最初のそれなりに責任伴いますから、書き方によって人の取り方が変わってきて、明文化したらそれは公約、マニフェストとしてやるんやろうなということになってくるし、次のとき総括して逃げるわけじゃないですけども、つくります、整えますという表現は、文章的には、もうちょっと考えられてもいいかなと思ってますけども。

○都倉達殊市長

ここでお伝えしてるのは、やはり地域、学校、行政が、家庭も含めてですけど、互い

が連携し合うということが大切というのは、今年度、不登校対策に重点を置いて今やってるわけですけど、やっぱりその学校に行けない生徒さんをいかにフォローアップしていくかというのが、大変最近、特に高砂市も全国平均より高くなってますので、学校で学べない生徒さんに対して、どういう教育環境をつくっていくかというのが大切だと思います。

そこには学校にはできない、学校の教育現場に来られないこどもさんを、いかに家庭と連携しながら進めていくかということですね。やはり体制づくりというのは、そこにあると考えております。

○山名克典教育委員

いいですか。具体的な話としての不登校に関しては個々で話、お話していかなあかん話いっぱいあるんですけど、実際には現実の細かいことを言いますと、いわゆる不登校、学校行けない、かといって学校に行っても結局教室の中に入れない子とか、いろいろあったとき、その子らに前からお話してる形の、いわゆる環境のいい状態、明るい部屋をつくってあげてほしいと思います。

それで個々の話になってしまいますけれども、この前も学校訪問したときに、部屋、教室に入れない子たちの部屋があったんですけど、とてもじゃないが、この部屋に何人おりましたか、4人か、5人いましたけど、みんながみんな壁に向かった形で、いわゆるうつ伏せな形で、会話するわけじゃなくて、うつ伏せで壁に向かって、入った瞬間にこの暗い雰囲気なんだろうという形があって、そういうのを改善するためにも本当にすごく早急にいろんなことをしていったらなあかんのだろうなと思うんですけども、学校に来られない子に関しての、結局、その登校場所、いろいろなこと、今、2か所試験的にやられてますけど、もっと明るいところで、それで学校を離れた形で、結局ほかの専門のそれなりのサポートできる人、専任、専任を置いていく。それと、学校の中に来たとしても、学校の中での結局、まだ学校に来てるのに、こういう環境の悪い所で、壁に向かった形で机にうつ伏せで、ずっとこの子ら寝てて、これで学校へ来た形で帰るのって言ったときに、やっぱりちょっとこれはいかんだろうと、現実としてはこんな状態があってはいけないと思ったんで、こういうのはもっと早急に改善していかなあかん緊急の課題だと。本当に不登校とそれに関して、来ても教室に入れない子とか、そういうのに関して、本当していかなあかんと思ってます。話ちょっと変わりましたけど。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。ほかございましたら。

○吉屋章教育委員

基本方針の（１）ですけども、ここで質の高い教育を行うという項目なんですけども、質も高い教育を行うに当たっての手法ってもちろんいろいろあるんです。その中でICTの活用ということで上げられますけども、このICTの活用、もちろん1人1台タブレット渡って、電子黒板になって、いろんなものを使いながらやってるんですけど、やっぱり高砂市内見てたら差があって、温度差みたいなのがあって、もちろんそれは学校の先生にもよるし、方針にもよるけども、なかなかこれをほかと比べたときに、どうかというときに、いいところももちろんあるんですけど、非常に使えてて。その中で、このICT教育というのは、すごい整備してるか、できてないかによって、このこどもの学習の機会ってむちゃくちゃ大きく差が出てくる部分だと思うんです。

そこで市長はこのように書かれてるんですけど、このICT、これで何もかもするには、大きな予算が要る部分ですから、これからすぐにタブレットを交換したり、その中のソ

フトも変えたり、いろんなところで大きな予算は、またお願いしてすることになると思うんですけど、このＩＣＴ教育、情報教育ということに関しての重要性とか、これから大きな予算もちろんかかるけども、それでもそれを踏まえた上で、よりいい端末、よりいいアプリやソフトを入れるんだという、どれぐらいのここにかかる思いというか、重要性聞かせてほしいんですけども。僕はめちゃくちゃ大事だと思うんです。お金は要るけども、何もかもできるわけじゃないの分かてるんですけども。

○都倉達殊市長

当然、そういう教材なりをそろえたら大丈夫かって言ったら、そうじゃないと思ってます。当然、教える側の教員の方々のスキルアップも、研修によってスキルアップしていかなきゃいけないし、それとやはり、私の考えてるのは、今のこの小中学校の中で学ぶこのＩＣＴの環境の中で、社会に今度出ていったときに、高校、大学あるわけですけども、すごい早いですスピードが。だから、それに当然合わせていかなきゃいけない、それぞれのこどもたちが学ぶ力を付けていくことによって、当然スキルアップしていくわけですけど、義務教育の間にどこまで環境整備ができるのかというのは、他市の事例も含めて研究しながら、高砂市の教育環境をどういった内容にするかというのは、教育長とも相談しながら、これから進めていかせていただきたいと考えております。

○吉屋章教育委員

機器の充実とか、整備はもちろんですけど、今、市長言われたように教職員、先生方も研修であったり、授業のＩＣＴ、情報、技術の授業の研究であったり、そういうのもいろいろ大切だと思うんですけど、その辺を市として徹底して、これで、これほんまに大事なやつでって周知させるところも必要かと思うんです。研修会を設けたときに、わしはいいいねん、別に今までのとおり自分で、アナログでやっていけるから。もちろん、これは先生の労力を減らすという意味もあるけども、やっぱり学校、クラスによってはこどもが触れてないクラスとかが先生によって出てきてるんです。触ってない。だから、先生は、わしはいいいから、大丈夫やから、そんな労力かかっても頑張るからやけども、やっぱり触る機会が、そこに関わってるこどもたちは減ってしまうんです。そしたら、そのまま次ぽんっと上がったときにやっぱり遅れてしまうんで。幾ら今の子がスマホ触ってしてるかといってもまた違うんです。

○都倉達殊市長

内容はね。

○吉屋章教育委員

そういう形で全体としてある程度一定の水準を満たす形で機器の活用であったり、授業の質というＩＣＴ教育高めてもらいたいと思いますけど。でないと、ここすごい差がね。地域の中の学校同士のももちろんですけども、他市町、そういうところ、これからそこで競争していかなあかんからこどもらは、こんなところで、スタートから差が出るんちゃうかなと思ったりも。高砂はできてないと違って、そういうところもやっぱりあるから、その辺が気になるんですけど、どれぐらいの重要性を考えられてるのか。

○都倉達殊市長

教育長、一言。

○玉野有彦教育長

吉屋委員のおっしゃることが、ＩＣＴについてはとても必要やなと思ってはいます。ただ、それを使う人がやっぱり大事なので、その研修を教育委員会では進めていこうとしています。

全国的に比べると、うち、高砂市の先生は意外と活用しています。

○吉屋章教育委員

使い方ですね。だからね教育長、僕らがこれ議論する場じゃないんで、あれなんですけど。

○玉野有彦教育長

いや、違う。

○吉屋章教育委員

ちょっと意見としてね。電子黒板使ってます。映してます。

○玉野有彦教育長

そうそう。

○吉屋章教育委員

それで使ってるんです。先生がね。でも、使えることってそんなことじゃなくて、ほんまに触らせたい部分ってもう一つ。だから、そこを教育委員会としてもっと研修を行い、高めていきたいと思います。

○玉野有彦教育長

そうなんです。電子黒板に教科書を映すだけじゃなくて、例えば、こどもの考えたものをどうやって前面に映しながら、それをディスカッションしていくかということとか、ということを進めていきたいなと思っています。個人で学ぶ時間、ＩＣＴを使って個人で学ぶ時間、ＩＣＴを使って全体で学ぶ時間を取りながら進めていきたいなと思っています。その手立てとして研修会をして、高めていっているということを進めています。

その研修会のやり方なんだけど、やっぱりいいソフトがあったら、それをうまく使えますから、そのソフトがあればいいかなと思います。

○吉屋章教育委員

教育委員会が、その研修したりしたの僕も知ってるし。

○玉野有彦教育長

そうだね。

○吉屋章教育委員

やってるけど、市長がどれぐらいのそこに重きを持ってるか聞きたかっただけで。

○玉野有彦教育長

いや、いや。

○吉屋章教育委員

何も教育長からその話、僕は知ってるからいいんですよ。

○玉野有彦教育長

そういうアピールを、今、私はさせてもらってるわけなんです。

○吉屋章教育委員

はい、アピール。

○玉野有彦教育長

そういう研修をやっていくためには、やっぱり予算が要るかなと。もう一つ、情報教育推進員というのがいて、その人が各学校に行って、こんなふうにとったらこどもらは理解深まるよみたいなことを言ってくれるので、そんな人らがもっと増えてもいいかなと思ったりも、話を聞きながらあります。ただ、教職員の資質能力は高めていかないと、研修は大事かなと思います。

○吉屋章教育委員

ありがとうございます。

○山名克典教育委員

いいですか。

○吉屋章教育委員

もう一言だけ、推進委員の方結構ちゃんと配置してくださってて、増えるにこしたことはないんですけど、高砂市うまいことそこで回して、そこに困ってないという意見聞いてるので、ありがとうございます。

○山名克典教育委員

いいですか。このICTのタブレットの使い方に関して、市長が言ってる不登校のことに関しての分で、今、高砂に関して、結局、不登校に関してみんな1人にタブレットがあって、不登校の子に関してタブレットを渡して、それなりの授業の内容の結局補習なり、あるいはツールやってるかということになるとできてないんです。ほとんどできてないんです。できてます。学校の中、いわゆる不登校の子に関して、個々に対しての対応やられてます。

1回1回、例えば長期でなくても、1週間なら1週間の欠席したとしても、長期で20日以上1か月以下休んでる子に関しても当然のことだけど、1週間休んだだけで、タブレットの連絡が来ないことがあったりして、その辺の利用、やはりふだんの欠席のあったときの長期、それなりの欠席、病欠欠席、コロナにせよ、いろんな病気があった、そういうときと、今言った不登校のことに関しての、それこそ体系立った形で、それなりにサポートできるような形、学校学校でやっていくことでは無理があったときに、全市的な形で不登校に対してのせっきくICTがあって、タブレットを使った形の対応の仕方をして、つくるかってつくれてないでしょ。そういうのを考えていかないと、やはり不登校のことに関しての根本的な、いわゆるやっていることではないと思うんです。

彼らがそれで実際学校からのコンタクトが、時間がたてばたつだけ、学年が変わったら今度本当に前の担任から離れたら、今度新しい担任が来たときに全然コンタクトしてこない。そうしたときに何もほっとかれる中で、そしたらどうするかというたら、親

は結局自分で違うところの、不登校の子たちのコネクションを探しに行って、そこで話して、それで勉強に関してどうしたらいいだろうという形の不安を持ちながら、結局生活していった。こどもには教えながら。でも、そこを高砂市は、それを切り捨てることないと言って、見捨てることないと言うのだったら、なぜ体制をつくってくれないのか。これは前にも言ったことあるんですけど、やはり、きちんと学校単位でやることはやっていく。担任の先生の仕事なのかどうかは別として、学校として。それからさらに、どうしても1人で手に負えない、いわゆるふだんの20何人、30人見てる。その中であえて時間外的に1人を見らなあかんようになってきたときに、すごく負担が大きいと思うから、それに関して全市的な対応の仕方として、不登校としての対応をするスタッフ的な、そういうものが、部署的なものをつくっておかなあかんと思いますよ。

○玉野有彦教育長

それは私がしゃべってもいいですか。

○山名克典教育委員

いいです。

○玉野有彦教育長

それは、そういう人員配置をしたら、その人がやっぱり休んでいる人に送れるような、学習内容はこうです、1週間の内容はこうですみたいな感じで送ることができれば、それは教師と担任がするのは、何かがあったらそっち側が大事になってしまうんで、不登校の子の支援というのは、そういう方がいらっしゃったらありがたいなということは思いますけどね。

○山名克典教育委員

できてないでしょ、ということですね。

○玉野有彦教育長

ただ。

○山名克典教育委員

だからつくってほしいね。結局、そこを、それを市長が今せっかく言ってくれとるんやから、要するに不登校のことに関しても積極的にやろうと。今、大事なことで、人数が増えたからということで、結局、そういうのは、今後、他市ではやってる、そういうところで充実した、教育を充実させてるところがあったとしたら、そういうところは十分まねして、それなりのことをつくってほしいということを僕は言ってるわけです。

○玉野有彦教育長

そういうことやね。

○山名克典教育委員

そうです。だから、それをやはり言った以上はしようよと、していきましょうよということだと思うんです。

○都倉達殊市長

現場の状況、何か話できる。矢野参事。

○矢野仁之学校教育室参事

学校教育室参事です。

山名委員がおっしゃられるのも確かに、あれですね。体系的にしっかりサポートし続けていけるところ、サポートできる体制をとということをおっしゃっているので、確かに体系的かと言われたら、そこは難しいところあるかもしれませんが、リモートの授業を、こどもたちは、不登校の子も学べる環境は徐々に整えていってます。そうやってしてくださる先生がいます。

それからあと、日々の連絡で、今日の調子はどうという言葉、投げかけとかをして、で、返事が返ってくるとか、そういったこともやっています。ただ、それが全ての先生にできてますかって、山名先生がおっしゃってることを問われたときに、全ての先生ができる環境はありますというのは、今はまだ言えない状態です。

ですので、今言っていたいただいたことを肝に銘じて、今後どうやってやっていったらいいのかということは研究して、しっかりやっていけたらと思っております。

○玉野有彦教育長

山名委員さんが言われたのは、先生でやってる先生もおるし、ほかの仕事があってできてない、日常的にこの日はできて、この日はできてない先生もおるかもしれません。環境も整って動画、授業を見れるような感じにできて来ている。先生方もその不登校の研修もしながら、より充実するためには、そういう専門的な人も要るんじゃないのということをおっしゃってるのかなと思ってる。ICTという形で、その授業配信を、その人がやるようなことをするのはあかんのか。それを人員配置したら、もっとより不登校のこどもたちにも学びの面白さが分かるんじゃないのということを言ってくださっていると思うんです。

それも一つだし、ただ、私らは先ほども事務局から言ったように、魅力ある学校というのをつくっていかなあかん、そういう両方が大事なかなということを思いますので、そちらも不登校指導補助員も入れてもらっていますので、例えばそういうことができる人も入れてもらえたらありがたいかなと思いつつ聞いていました。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。ほか、どうぞ。

○神尾信作教育委員

先ほど家庭教育という言葉を入れていただきたーいとお願ひしましたが、もう一つ入れていただきたーい言葉があつて、今、ずっとこの高砂、教育のまち高砂ということで、それで行きましょうということで、それを完成、近づくためには、先ほど予算化の話がありました。僕、もう一つそのお金も大事だけど、よく言われる非認知能力、要するに認知できる、IQとか、学力は認知できる、数値化できるものですよね。で、非認知能力というのはよく言われてて、それは優しさとか、思いやりとか、忍耐力とか、好奇心だとか、そういうものが非認知能力になると思うんですが、それを高砂市の教育で育てますという、一つのキャッチフレーズというか、一つの、これから絶対大事になることだと思うんです。ですから、それを大綱の中に、そのどっかの、この基本方針の中のどこかに、また無理なお願ひをしてるかもしれないんですが、入れていただけたらなということをつつと思つてゐるんです。

そんなことを思つてたら、ちょうど2週間ほど前の8月9日の神戸新聞の朝刊に、タイムリーに非認知能力を伸ばそうという記事がありました。ちょっとだけ、私が言うよ

りは、このちょっとかいつまんで読ませていただきます。

学力や知能など測定できる認知能力に対し、数値化できない非認知能力が近年教育や子育ての分野でも注目されている。お茶の水女子大の浜野隆教授は、両者は車の両輪でバランスよく育てていくことが大切だと指摘すると。割愛しまして、現代は変動が激しく不確実性が高い社会です。どんな社会にも適用し、軸を持って生き抜くために必要なのがこうした力です。樹木に例えると非認知能力という根をしっかりと張ることで、豊かな人生という大きな実を付けることができると考えますと。これはもちろんお茶の水の博士、教授の説ではあるんですが、でも、これは彼だけが言っていることだけではなくて、多くの学者とか、世の中がこの非認知能力の大切さについてはどんどん言っていると思うので、これから5年、6年先を見据えても、この言葉を入れて、高砂市独自の、教育のまち高砂の一つのキャッチフレーズの中に、こういうのをに入れていただけたら、また違った形の基本理念だとか、基本方針ができるんと違うかなと思いましたので、お願いさせていただきました。

○都倉達殊市長

他市の大綱を見てましても、やはりインクルーシブ教育であるとか、こどもたちの心をどう育てていくかというところをですね、やっぱり先生言われているように家庭も大事だし、学校の教育現場でもどういう状況であっても、心の教育というのが一番大切だと思ってます。そこはやはり数値化できない部分なので、そこをどういうふうに学校現場だけではなく、地域も含めて、それをどう育てていくかというのが、（２）番の２番で、共生社会の実現を目指しますというのは、そういったところをお示しさせていただきます。

○神尾信作教育委員

ありがとうございます。

○都倉達殊市長

次の内容もありますので、いろんな御意見ありがとうございます。

それでは、一旦ここで、この貴重ないろいろ御意見をいただきましたので、次回の総合教育会議には改めて、また案という形でお示しさせていただきます、引き続き、またいろんな御意見を賜りたいと思っております。

それでは、続きまして議題２といたしまして、高砂市教育振興基本計画についてを議題とさせていただきます。

第３期高砂市教育振興基本計画が、令和６年度末で期間を終了することから、現在、教育部で第４期の高砂市教育振興基本計画の策定作業が行われております。

今回、現時点でのコンセプト案を策定させておりますので、まずは第４期計画のコンセプト等について教育部より資料の説明をお願いいたします。

○事務局

はい、説明いたします。このカラーの右側ホチキス留めしております、こちらの資料をお願いいたします。

こちらとA４の、この１枚ものの、施策の体系第４期の分と、この２つで説明を進めさせていただきます。それではカラーをまず見ていただきますでしょうか。

高砂市教育振興基本計画の骨子案についてですが、こちらの１ページめくっていただきまして、そちらに４期の計画の、この資料の内容をお示ししております。

骨子案を作るに当たりまして、まずは教育をめぐる現状としまして、（１）の社会が

求めていること、（２）国・県が求めていること、また（３）の３期計画の成果、課題など、また、２、それを踏まえまして高砂市の教育のめざす姿としまして、基本理念とめざす人間像、方針、目標、重点施策といいました骨子案について説明をさせていただきますと思います。

それでは、次のページをお願いいたします。教育を巡る現状です。

（１）社会が学校に求めていることにつきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、人と人とが関わり合う機会が減る中、学校としましては、人と人とが関わり合えるような魅力ある学校としていく必要がございます。

また、国際化が進んでいる中、お互いの文化を尊重し、国際社会の一員として自覚を持つことも大切であるとされています。

また、新型コロナウイルスやウクライナ情勢などのように予測困難な状況も、今後も想定されます。力強く生き抜く力の育成が必要とされています。

また、人口減少や少子高齢化が進む中におきましては、質の高い教育や学び続ける人材の育成も必要となっております。

また、情報化の進展に伴うＩＣＴ機器の効果的な活用や情報活用能力の育成、また、多様性への理解のための、自他のいのちと人権を大切にする心の醸成などが学校に求められているところです。

次のページをお願いいたします。こちらに国の第４期の教育振興基本計画についてお示ししております。国の方では令和５年６月に策定をされております。こちらにコンセプトとしまして、持続可能な社会の創り手の育成と日本社会に根差したウェルビーイングの向上を上げさせていただいております。

また、次のページをお願いいたします。こちらに県の第４期の計画についての基本理念として、３点上げております。１点目が、兵庫が大切にしてきた「心の豊かさ」の育成と体験教育、防災教育、また、２つ目が新型コロナウイルス感染症の影響による課題に対し社会全体での連携協働、３つ目につきましては、令和の日本型学校教育として、主体的・対話的で深い学びの実現という基本理念を掲げています。

次のページをお願いいたします。こちらが第３期の教育振興基本計画の成果を上げております。重点テーマごとに成果を上げさせていただいております。

重点テーマ１の学校教育の推進では、コロナ禍での教育活動の継続と不安への寄り添いや、ＩＣＴ機器の環境整備、また、児童生徒、教職員の活用力の向上、また、中学校給食の提供開始や物価高騰などへの対応、また、特別支援、外国人、不登校児童生徒等への支援の充実、介助員、スクールアシスタント等人員の配置などを上げております。

また、重点テーマ２の学校・家庭・地域が連携協力した教育の推進では、地域とともにある学校づくりの取組の実施と工夫、また、ＩＣＴの活用、時間短縮等による教職員の働き方改革の推進を上げております。

次のページをお願いいたします。重点テーマ３の生涯学習の推進では、高齢者大学や公民館などの公共施設での生涯学習活動への支援の拡充や図書館利用の充実と講座イベントの開催、また、大学連携事業の拡大と人材の発掘などを上げさせていただいております。

次のページをお願いいたします。こちらは第３期の計画の総括課題でございます。

３つの項目、学校教育、教育環境、生涯教育に分けております。学校教育では、学力向上としては学び方の改革、人権感覚の育成としましてはいじめに向き合う取組の充実、多様性への対応としましてはニーズに応じた教育の推進、２の教育環境としましては、教職員力の向上として新しい時代の指導力の育成、教育ＤＸの推進としましてＩＣＴ環境の整備、また、学校施設の在り方の検討としまして新たな学校づくり、また、３の生涯学習では、学校と地域の連携としまして参画意識の高揚、地域、家庭の教育力の向上

としましては生涯学習の機会の充実、地域資源との協働としましては地域人材、産業、文化との連携を上げさせていただいております。こちらが課題であると考えております。

続きまして、次のページをお願いいたします。ここからが第4期の高砂市の計画の骨子となってまいります。

第4期の計画では、先ほど説明いたしました国や県の計画、また、第3期の取組や課題を踏まえまして策定を行ってまいります。

高砂市の教育がめざす姿としましては、重要な3つの項目を上げております。1つ目が予測困難な将来を切り拓きつつ生き抜く、生き抜くためには自ら課題を見つけ、他者と連携・協働しながら粘り強く探求し、新たな価値を創造していく力の育成が求められています。

また、2つ目としましては、多様な人々がともに生活する社会をつくるためには、学校、家庭、地域が一体となって、それぞれの役割の下、協力し合い、こどもたちを育んでいく教育環境の創造が求められているところです。

また、3つ目としましては、誰もが文化・芸術・スポーツ活動などに親しみ学び続けるためには、自分の持っている可能性を発揮させることができ、誰もが学び続ける喜びを感じられる生涯学習の機会の充実が求められているところです。

これらを踏まえまして、基本理念としましては「思いやりとたくましさをもち、ふるさと高砂の今と未来を創る人を育む」の実現に向けて取り組んでいきたいと考えております。

次のページをお願いいたします。この基本理念と、そのページの下にめざす人間像とございます。こちらの人間像は3期の項目を踏襲しておりまして2点上げております。

自然と伝統・文化を愛し、互いを支え合い、よりよい社会を創ろうとする人、また、知・徳・体の調和がとれ、自立して、生涯にわたって自らの夢や志の実現に努力する人を上げております。

ここからは施策の体系の説明になってまいります。A4の1枚ものの表をお願いいたします。

この表の下の方の表の一番左側に学校教育、教育環境、生涯学習として表示しております。その右側に、基本目標としまして3つの項目を上げております。その右に基本方針としまして9つの項目、その右側に5年間の施策展開の中心となる方向性として、主な取組を24項目上げております。

先ほどのカラーの資料に戻っていただきまして、ここから分けた形で説明させていただきます。

まず、基本目標としまして、3項目上げさせていただきまして、次のページをお願いいたします。1つの基本目標に対しまして、3つの基本的な方針として3項目ございます。こちらが、1つ目が確かな学力の育成、2つ目が豊かな心と健やかな体の育成、また、3つ目が学びと育ちの連続性のある教育の推進です。その右側には主要な取組を上げております。

次のページをお願いします。基本目標2につきましては3項目、1つ目が一人一人に応じたきめ細かな教育の推進、2つ目が教職員がこどもと向き合うための環境の充実、3つ目が未来を見据えた学びの場としての環境の充実を上げております。また、その右側には主要な取組を上げております。

最後に、基本目標3の3つの基本的な方針としましては、1つ目、大人からの学びとこどもからの学びの循環、2つ目が地域をベースとした学びの充実、3つ目が人生を豊かにする生涯学習の推進としております。その右側に主要な取組を上げております。

体系としましては、このA4の横を見ていただきたいと思います。これらの施策体系を骨子としまして、高砂市の教育振興基本計画第4期の分を策定していきたいと考えて

おります。

骨子案については、以上となっております。よろしくお願いします。

○都倉達殊市長

ありがとうございました。資料の説明は終わりました。

まず、私から確認させていただきたいこともございますし、また、その後、教育委員の皆様方からいろいろ御意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

私から、12ページの中で、確かな学力の育成の1番です。その中で3番、基礎・基本の定着と粘り強く取り組む力の育成ということがあります。この中でやはり基礎・基本の定着についてどのように取り組んでいこうとされているのか教えていただきたいと思います。

はい、教育長。

○玉野有彦教育長

基礎・基本の定着、知識、技能の習得ということを私は思っているんですけども、それを授業の中で目当てを確認しながら、今日はこんな学習をしていくんだということを授業の中で示しながら、知識の獲得をさせていきたいなと思います。

授業が中心になってくると思うので、その辺を大事にしたいなということを思っています。もう一つは、やっぱり子ども一人一人は学ぶ力が変わっていくと思うんです。どれだけ習得しているかというのも個人によって変わってくると思うので、その辺自分で計画して、これをやります、やりたいということを、目当てを自分の中でつくること。個別でする場合は、自分はこれを学びたいということを計画して、それをICTも使いながらも、またドリル学習しながらも、それができたのかという振り返りをしながら、学ぶことができると思っています。いきなりやれよと言っても子どもたちはできませんので、授業改善をしていきながら目当てはこうやで、じゃあ、自分らでやってみ、みたいなことをしながら進んでいきたいなと思っています。

当然、それだけで子どもたちには力が付きにくいと思いますので、ICTの有効活用とか、それから教師の支援、それからスクールアシスタントの配置、またはがんばりタイムの設置などを行っていきながら、基礎・基本の定着を図っていききたいと思っています。それを粘り強く取り組ませていくことが、私は大事なかなと思って、特別にこうやって出させていただいております。

○都倉達殊市長

はい、ありがとうございます。

もう一つ、もう一つ。次の13ページの中で、教職員が子どもと向き合うための環境の充実とあります。このことについて、学校の組織力の向上について、こういった施策、方法が考えてられるのかというところでお願いできますでしょうか。

○玉野有彦教育長

当然、まず管理職のリーダーシップとマネジメント力の向上が大切だということを思っていますので、そこにつきましては管理職研修を十分積んでいくことをしております。自分らの、校長はこうあるべきやということを学ぶ研修ではなくて、自分たちでどのような管理、マネジメントがいいのか、リーダーシップの発揮性があるのかを考えさせるようなことを今取り組んでいるところでございます。

それをまずしておいてたら、いろんな組織を学校の中で組んでいく必要がありますの

で、安全の体制とか、指導の体制とか、相談の体制とかという形で教職員のグループで、組織を構築して進んでいくことを、取り組んでいくことをしていく形で進めております。

もう一つ。やっぱりそうやっていろんなことをしなさいというと、とても働き方がしんどくなってくるので、そこでＩＣＴの、例えば、校務支援ソフトを導入したり、６月議会で保護者との連絡ツールも予算化していただきましたので、ＩＣＴも使いながら業務改善を図っていったって、業務に傾注できる形を今取っているところです。

○都倉達殊市長

はい、ありがとうございました。

目標、基本目標の１で上げられているように、確かな学力の育成、これは大変、一番重要だとは思っているんですけど、私は常に思うのは、やはり、２番の豊かな心と健やかな体の育成ということが一番大事であって、心の持ち方によっていろいろ勉強の取組方も変わってくるし、そういった両方、両輪をどういうふうに小中学校の間で育んで、育てていくのかというのが大変重要だと思っておりますので、これからは各委員の方々に、この振興基本計画のコンセプトについて御意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。どうぞ。

○山名克典教育委員

この前のときの、話し合ったときとはちょっと違って、基本目標のところには、１番のところに特別支援教育の充実と、２番の多様なニーズに応じた教育の推進が変えていただいているので、前回のときとはちょっと違う内容になってきているので、これに関しては、特別支援教育の分が、前回８月１５日の検討会したときには出てきてなかったんですけども、やはり特別支援教育というのは、やはり県も、国も、いまだに重要な教育の一環と思っておりますので。それと先ほどいいました人権課題に関しましては、前回のときには障がい、外国人等へのニーズにおいた教育の推進という形で書かれてたんですけど、多様なニーズに応じた教育の推進ということで、やはりいろんなことに対応する形のスタンスでいくことに関して、こう書いていただいたことに関しては非常にうれしく思っています。

ただ、それと、２番のところでの、基本目標の２－２のところ、教職員が健康で働きがいのある環境の整備ということに関しましては、やはりこれは本当に市長が最初の、元に戻ってしまいますが、教育のまち高砂ということで、どういうのをやってくれるかということで思うんですけども、国も、県も、チーム学校という学校全体で今の既存の中でのそれなりの努力をしなさいという、それなりの中で助け合っしなさいという、そういうことありますけど、やはり教職員が健康で働きがいのある環境を整備するためには、それなりのＩＣＴの充実とか、それとあるいはいろいろなスタッフ、特別支援教育に関してはいろんな人を配置していただいている形になってますし、教育の中での補助員とか出てきたりとか、そういうのもある。けども、実際には問題があったときの、そのクラス、学年単位とか、あるいはそれなりの学校の中での、そういうチームの中で動いても、どうしても、どうしてもないところがあると思う。それに対しての余裕のある人材の配置というのは、これからは国は当然してくれるんだろうと思いますけども、さらに一歩進んだ形で高砂に関しては、先ほど言った不登校のことに関してもそうですけども、やはり何らかの余裕のあるスタッフを置いてくれると、確かに先生方の余裕が出ると違ってくると思うんです。

そういうものをやっていただきたいなということで、この文章として書きますけど、結局、その中には、今、教育長が言った、今のかつつのスタッフの中でやっていきます、どうのこうのという形よりも一歩進んだ、高砂の、教育のまち高砂としての独自性

を出すための、御配慮いただけたらいいのかなと思います。

それともう一つ、地域のことと家庭のことに関しての問題ですけど、地域、家庭による連携という形で、当然、家庭教育の、神尾先生に対してちょっと失礼になるかも分かりませんが、その家庭教育そのものが非常に、僕はものすごく難しくて、いわゆる小学校の時から、先ほど言われた学力、確かな学力の向上育成と、豊かなこと、健やかな体の育成、そういう心、やはり教育に対するそれなりの、親御さんがそういう教育を受けてきて、それなりの理解を示してきて初めて、高砂の中で結局教育をみんなでしていこうという、そういう全体的なボトムアップでやられる。レベルアップを図らないと、家庭の中での家庭教育というのは非常に難しくて、どうしても掛け声倒れになってしまうところがあるので、やはり地域、それなりには本当、こんなん言うたらそもそも論でいつから学校、教育するねんということになってしまうし、戦前から、今から、戦後からどうのこうのって言ったら切りないんですけども、やはり親御さんの教育その方、結局そういう方に細かく細かく、常にいわゆる密に話し合って、結局そういう理解を得ていかなきゃならない。それなりの家庭環境の方がおられるということがあるのと、それと家庭教育するためには、貧困な形があったとしたときに大変なことになったりするから。実際にちょっと問題になって思うのは、全く話飛びますけど、やはり学校、夏休み短くなったこともあって、この前テレビで言ってましたけども、学校が夏休み短くなったときのメリット、デメリットがあるんですけど、メリットの中で先生方が、結局、授業日数を増やしたことによって1回、1日の勉強タイムが短くなって、それでこどもの集中力も保った形、常に6時間授業しなきゃならない、5時間、4時間授業で済む形になったら、こどもも集中力を保って効率も上がるだろうという形はある。だけど、逆に言ったら、そうすると先生方もすごく余裕があって、それも多分、僕は夏休みを短くしてきたことが授業の在り方として変わったし、こどもたちの健康のためにも良かったかなと思うし。ただし、今度、デメリットとして、家庭の方、お母さん方にとって共働きしてる人たちにとっては、結局、給食がないとかね、夏休み見る者がいないとか、学童に入ってなかったりしたとき、あるいはそういった食事の問題とかもあったりすると。そういうすごく、この前それを見てまして、やはり地域で夏休み中の学校へ、お母さんは働いてる、でも学校は給食もないようなとき、としたときそれなりのサポート体制は、いわゆる誰も見捨てない、見守っていきますよという形だったら、それなりの配慮のある施策も必要かなと思ったりは、ちょっと外れますけど。そういうのも、だから、先生方の働きがいがあって、健康な働きがいのある環境にするためには、やはり余裕のある状態をつくるためには、時間的な問題とスタッフの配置というのは、そこはどうしても考えていただかなあかんのかなというのは思ってます。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。

そうですね。やはりこどもたちの教育をしていただいている教職員の環境を整えるというのは大事だと思ってます。そこには今、山名委員おっしゃったように家庭が、全ての家庭が対応できれば一番いいわけですけど、なかなか100パーセント、いろんな家庭によっても、いろんな課題を抱えられてるところもございますので、そこをどこまで市として、また各学校と教育現場が家庭との連携をいかに強化していくかということが大切だと思っております。

教育長、何かございますか。今の内容で。

○玉野有彦教育長

人材サポート体制というのはやはり大事かなと思って、今聞いてました。夏休みも共

働きで出ている親もいるので、その辺、そういう発想の転換で、サポート体制を地域で取れたらどうなのかみたいな感じのことも、今、頭に出てきて、夏休みの間学習する場所を与える、食事する場所を与えるみたいなことがあったら、そこを見る人もいたらということも、そういう発想があるなと思って、今聞いてました。

○都倉達殊市長

ちょっと補足しておきますけど、やはりこども食堂、今、市内でやっていただいているんですけど、それだけではなかなか対応が難しいところもあって、夏休みだけではないんですけど、やっぱりこどもたちの居場所づくりとか、そういったことも、今後考えていく必要があるのかなと思っております。

ほか御意見ありましたら。

○吉田美香教育委員

今のお話ですけど、米田小学校で自主学習ペースを夏休みやってまして、私も見学に行っただけですけども、1年生から6年生まで同じ部屋で勉強してるんです。勉強してる子ばかりではない、本読んでる子もいたり、それが何かわちゃわちゃというんですけど、とてもほっこりする雰囲気です。異年齢が仲良くしてて、卒業生が、中学生、高校生、大学生がちょうど手伝いに、教えに来てます。

○都倉達殊市長

教えてる。

○吉田美香教育委員

宿題を教えに来てて、去年まで教えてもらってた子が今年教えて来てます。小学生の子を前に座らせて一生懸命教えてるんですけども、そういう感じがすごくいいなって、今ない、なかなか見られない景色なので、そういうものがもっと増えてきたら。こどもも本当にいい笑顔で、お兄ちゃんたち、お姉ちゃんたちに教えてもらって。

○都倉達殊市長

そうですね。

○吉田美香教育委員

何かすごい感じなんです。自分たちも、教える側も、何やこんな簡単や、教えたわとかって、すごい偉そうに教えてるんですけど、それもまたかわいくていいんです。だから、その家庭環境が本当に寂しくなってるので、そういうことも含め、それからお母さんたちもいっぱい生活してて、自分のための時間というの全然なかったりして。昔、私たちがこどもが幼稚園行ってる頃というのは、保護者のための勉強会みたいなのがあったんです。それで月に市から予算いただいて、月に5,000円、そのときは、5,000円で来てくれる講師呼んで、自分たちで考えて、プログラム組んで年間しなさいという感じで、それぞれにこんなこと話聞いてみたいとか、こんな勉強したいとかいうので、1年間プログラムを組んでやったりしてたのすごくよかったなと、今思うんですけど、それがカットされちゃってなくなってるんです今ね。だから、どんな形でもいいから人と人が触れ合って、一緒に何かができる機会というの、いっぱいつくっていただくということが大事なことで、それができるのは教育現場だけだとなかなかないので、市全体でいろんな人が、異年齢でも、全然違う環境の人でも、何か触れ合う機会をいっぱいつくってもらえるとありがたいなと思います。

○都倉達殊市長

そうですね。結局、場所と人がうまくマッチングできたら。

○吉田美香教育委員

そうですね。

○都倉達殊市長

そういった。今、小学生から中学校に上がった生徒さんが、小学生を教えるという一つの環境ができるんですけどね。

○吉田美香教育委員

そうですね。

○都倉達殊市長

また、教えられたこどもたちも中学校になったら同じことを繰り返して。

○吉田美香教育委員

たぶん来ると思います。

○都倉達殊市長

いいですね。

○吉田美香教育委員

いいですね。

○都倉達殊市長

ほかありましたら。

○山名克典教育委員

いいですか。これ、ごめんなさい。資料この前もらった分ですけど、このアンケートの結果、このアンケートの集計されてる。これは、いつのアンケートですか。

○事務局

はい。今年の7月にアンケートを実施したものです。

○山名克典教育委員

これ今年の分ですよ。

○事務局

はい、そうです。

○山名克典教育委員

それで、これ見ててね。関係ない話なるかも、市長と話を、2人で話すべきかどうか知りませんが、この学校運営協議会に関してのアンケートの結果があるのを見られました。

それじゃないんです。このアンケートの結果があるんですけど。

○都倉達殊市長

まとめてある。

○山名克典教育委員

はい。あなたは学校運営協議会を知ってますかという、小学校5年生の保護者と中学2年生の保護者に聞いて、当てはまるものに、参加している者が3.2パーセント、1.4パーセント、知っている形は、名前は知ってる形は40パーセント、小学生に関しては、小学校に関しては40パーセント行かないし、中学生に関しては40パーセント超えたぐらい、40パーセントぐらいの方しか学校運営協議会を知ってない。それで参加したいと思いますかということ、参加したいのは1パーセントいなくて、要するに、どちらかといえば参加したいのはせいぜい20パーセント前後で、どちらかというに参加したくないのが50パーセント、60パーセントというデータですけど、これ出たときに、学校の運営と地域の連携でしていくときに、特定の積極的にやられる方は一生懸命やってくれるのはいいんですけど、こういうことを結局、皆様、いわゆる家庭と地域との連携といったときに、やはりいろんなことをもっとPRしてきちんと、それなりに皆さんに周知していかないと、なかなか言っていることが地域と学校連携ってね、みんなで育てるといったって、なかなか学校の運営に関して、このデータを見たときあぜんとして、えっ、やっぱりこんなもんですかと思いました、これ。

○都倉達殊市長

はい、どうぞ。

○玉野有彦教育長

私はそれが課題やなということを思っております。

委員の皆様はよくやってくださっているんですが、それをどう広げていくかが課題かなと思いますので、これが基本目標3の辺りが、今からやっていかなあかんことやなと思っております。

例えば、学校運営協議会の方に出向かせていただいても、学校運営協議会を知らない人が多いから、もうちょっと啓発してくれへんかという意見もいただいて、ありがたい意見をいただくので、啓発していつて発信させていただきます。保護者連絡アプリもあるので、発信させてもらって、学校運営協議会の存在を周知させつつ、その活動内容に参加、魅力ある活動ができて参加してもらえる感じでしていきたいなということを思っております。

これからの課題かなと思っています。ありがとうございます。

○都倉達殊市長

この8月も各市内のふれあい夏祭り、小さいところも含めて15か所ほど回っていったんですけども。吉屋さんも一生懸命、曾根小学校でこどもたちを集めてね。それぞれがやっぱり各種団体含めて協力し合って、地域をいかにしてまとめながら連携をしていくかというのが、ああいう一つのイベント、祭りでも大変重要だという認識はしてるんですけど、やはり山名委員おっしゃるとおり、そこに関心がある人となない人、当然ありますので、そこをいかにして参画をしていただけるかなというのが大切、重要に考えながらですね、市としても教育長と一緒に進めていきたいと思っています。

○玉野有彦教育長

もちろんです。そのアンケートの話だけど、小学校5年生のこどもたちは地域や社会を良くするために何かしてみたいと思いますか、という質問に対して、8割以上のこどもが、小学生がやってみたい、8割近い中学生もやってみたい感じなので、素養はあると思うので、それをどう活動に結び付けていくかということだと思います。こどもも含めながら、親も巻き込んでいくことが、地域を巻き込んでいくことが大事かな。その夏祭りということをしながらか、各地域の方々がやってくださっているなと思っています。

○山名克典教育委員

ごめんなさい。アンケートでも、ショック受けたのが。

○都倉達殊市長

ショック。

○山名克典教育委員

大人になって高砂市に住みたいと思いますかというのと、小学校5年生は41.3パーセント、そう思ってるけど、中学校2年生になったら17.4パーセントに減るんですね。もう高砂に住みたくない。やはりこういうのが、こどもは高砂市から出たいなという感じ。でも行く行くは将来帰って。

○玉野有彦教育長

そうなんです。

○山名克典教育委員

高砂に帰ってくると言っているのが37.1パーセントと、1回は出たいと。だから、こういったときにすごく思うのが、ずっと高砂に居座る形は絶対ないんで、結局、学校の教育環境、高等学校行こうという、高校終わったとしても大学がないし、近くに大学、その辺のあんまりないという、そういう状態があったりすると、やはり高等教育受けて、それでまたまた帰ってくるとしたら、帰ってきて働くところが実際どこがあるんだろうと、そういう形で地域の中で生活していけるんだろうと、いろんなことを考えたとき、やっぱりどこの市町村もそうだと思いますけど、今やね。結局帰ってきてても働き場所ないし、という感じで、郷土愛があったとしても、生活そのままでは食っていけないなという感じになりますもんね。

○都倉達殊市長

その数値では真摯に受け止めなきゃいけないんですけども、いや、僕も市長になって中学校3年生のふるさと授業を毎年行ってるんですけど、やっぱりこどもたちが中学校3年生の時にいかに自分たちが生まれ育ったふるさとをどう大切に思ってくれる、育んでいくのが大切だと思うんですね。

だから、駅周辺整備を今進めているのは、やはり高砂に住んで仕事が京阪神方面になったとしても、利便性が高まれば、高砂で住みたいなと思ってる若い世代もあるんです実際。だから、出て行って都会がいいのかという時期もありますけど、いかにして高砂の生まれ育ったふるさとを大切に思うかというのが、この中学校2、3年の頃に大切に思う心を育てなきゃいけないのかなと思って行ってるんですけどね。

○山名克典教育委員

実際に高砂、ごめんなさい、いいですか。

要するに、新興住宅地の中では本当に高齢化が進んで、結局、こども、当然帰ってこないから、いわゆる地域の、例えば、近くなら三田にせよ、加古川やったら言ったら悪いですけど、上荘町とか、ああいうところで、結局、新興住宅地、地域とそのつながりのないような形、土着した形の文化、そういうのがなかったとしたら、やはり後期高齢者になったときは、こどもが帰ってくる、帰ってこない。それに比べたら高砂は、それなりの郷土愛という、郷土愛じゃないんですけど、それなりの風土、文化があるから、まだ新宅、別宅という形で捉えた形、今あんまり、最近は聞きませんが、やはりこどもが帰ってきて、住もうと。住んでるような形で完全な高齢化に伴う過疎化が進んでないのは、この高砂の特徴だと、特色の一つ、すごく高砂の取り柄だと思うんです。そういうところがあるんで、やはりこういうところで、そういうので刺激しながら、そういう気持ちを持ってる形を刺激しながら高砂に帰ってくる形で、高砂に戻ってきてよかったって施策。それで市長にお願いも、今ぽこっと思ったことですけど。

やはり、いろんなことをやられて高砂市のこども教育、こどもの施策のいろんなことの充実してることがあったとしたら、やっぱりそれを行政のPR、いわゆる広報のところもうちょっとしっかりしないと、やはりやってること、他市と同等か、それ以上のことをやってるのに、いかにも高砂何もやってないんかという感じで思われて、いわゆる分かってない、だけでも実際そのようなこどもに対する施策とか、いろいろとやられてる事実があるのに、それは理解していただければ、高砂愛も育ってくるわ、高砂やっぱり優遇してくれてるんやという自負を持って肯定的考えにしてくれるかなと思いますけどね。

○都倉達殊市長

PRを含めて頑張ります。実際やってるんですよ。

○山名克典教育委員

やってるけど、なかなか。

○都倉達殊市長

今日も朝からいろいろ会議やってて、健康こども部のいろいろ会議やってたんですけど、やっぱり明石がそういうふうが目立ってることは事実なんですけど、うちも、高砂だけじゃなくて、加古川もいろいろやってるんだけど、じゃあ、今までやれてないのと、やっていこうとするとどんどん予算が膨らんでいく、全体の市の予算の中でも、そういったこともありますので。ただ、分析をきちっとやって、次の手を考えようねという話はしてます。

教育とは離れましたけど、吉屋さん何かありますか。

○吉屋章教育委員

いや、特に。

○都倉達殊市長

地域で一生懸命やってる。

○吉屋章教育委員

いや、そうやなと思って聞いてたんですけど、人口が減少してきて、こどもも減っていく中で、明石が増えたいうても取り合いじゃないですか。

○都倉達殊市長

そうそう。

○吉屋章教育委員

そこは何ぼやったところで一時的なものであれなんで、やっぱり郷土愛というのはほかから持って来られへんし、そこは大事にしていって、こどもらに思い出残したとかできる。僕ら市民の立場ですから、できることって限られてんねんけど、やっぱりここは気になる。僕らまちづくりやって結局何でや言うたら、それしかないんです。ここが好きやからって。その郷土愛というのほかから持って来られへんから、それをいかに育ていくか、なくさへんようにしとくかという活動を、僕らはやってるんですけど、行政や市長もお金、お金言うけど、お金を中心にいろんな部分でもっと後押ししてほしいです。連携も含めて、市民の活動とか、そういう運営協議会もそうですし、もっと行政も一緒にやっていこうなという感じで気持ち的な部分と、それと応援してほしい。応援してもっと後押しして、バックアップしてあげてほしい。

○都倉達殊市長

それがひいては地域の連携の広がりができるということだと思ってますから。

○吉田美香教育委員

私たち主婦が、賃貸でこどもを産んで育てて、家、一戸建て、家建てようかというときに、何を根底に考えるかって絶対考えるのは医療と教育なんです。だから、その2つってすごい大事で、そこをどんどんPRしていくと、やっぱり全然変わってくると思っています。

○神尾信作教育委員

一つ、私は生まれがこちらじゃないので、岡山から出て来て、こちらに住んで長いんですけども、本当に自分は高砂大好きで、本当に肌感覚みたいな感じでいい場所だなと。それこそ、そんなに田舎でもないし、都会でもないし、老後の生活を考えると住みやすい場所だなと思って、高砂大好きな人間になってますということが一つと、もう一つは、最初、市長さんがおっしゃった、豊かな心と健やかな体の育成、ここ重きを置いてますという言葉ですごくうれしかったです。今日、私がお話しさせていただいた非認知能力のところも重ね合わせて、すごく心強くありますので、また頑張っていたいただきたいなと思っています。

以上です。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。ほかありますか。

そろそろ予定の時間になってまいりましたので、本日いただきました貴重な御意見を踏まえまして、私ども進めている教育大綱同様に、この次回の総合教育会議に改めて、今、いろいろ御意見をいただきました教育振興基本計画のコンセプトの内容も含めまして、引き続き御協議をしていただきたいと思いますと思っております。

議題としては以上となりますけど、ほか何かありましたら、何かございませんか。

次回の総合教育会議には、またいろいろこちらで訂正かけるところは訂正して、また見ていただきながら御意見をいただきたいと思いますと思っております。

それでは、進行は事務局へ移らせていただきます。ありがとうございます。

○事務局

本日の議題は、これで全て終了しました。

次回の総合教育会議についてでございますが、今年度、新たな教育大綱、それから教育振興基本計画を定めるため、例年より多く本会議を開催させていただきたいと考えております。一応、予定としましては、次回は11月頃を予定しておりますので、改めて調整を行った上で御連絡いたしますので、委員の皆様におかれましてはお忙しいところ恐縮ですが、御参加のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これもちまして、令和6年度第2回高砂市総合教育会議を閉会いたします。

ありがとうございました。